

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

市町名	大崎上島町
所属名	健康福祉課 保険係
担当者名	田原 香利
連絡先(電話)	0846-62-0301

タイトル	1 健康維持・介護予防の推進 通所型サービス C「生活機能向上リハビリ教室」による介護予防、 重度化防止の取り組み
区分(あてはまるものにチェックを)	☒ 自立支援、介護予防、重度化防止 ☐ 介護給付費等適正化

現状と課題	
令和2年9月末の認定率（23.8%）、令和3年9月末時点の認定率（23.3%）、R4年9月末時点の認定率（22.1%）、R5年9月末時点の認定率（22.0%）は減少していたが R6年9月末時点の認定率（22.7%）9期計画時の推計値（23.0%）よりは若干低いものの上昇している。 認定者数そのものは増加していかないものの支え手人口の減少が大きく、認定率が上昇することが推計されている。今後も自立支援、介護予防・重度化防止の事業の推進は必要である。 しかし、重度化予防の要であるリハビリテーション体制が町内から無くなってきた。R4年度に老人保健施設は、介護老人福祉施設となり、リハビリを町内で受けられる機会がほとんどなくなった。訪問リハビリはなく、訪問看護によるリハビリが療法士1名で実施されているのみである。 通所型サービス C が、かろうじて重症化予防に取り組めているものとなっている。	
第9期（令和7年度）における具体的な取組	
通所型サービス C「生活機能向上リハビリ教室」の継続実施（定員枠いっぱいとなるように実施）	
目標（事業内容、指標等）	
（事業内容） 自立支援及び重症化予防を行うため、療法士・管理栄養士・歯科衛生士、看護職による通所型サービス C として運動機能向上を中心とした複合型リハビリ教室を直営で実施した。 （評価指標） 参加者数と修了者の運動等社会参加率を追加 目標値 80%以上	
目標の評価方法	

計画目標値と、実施後の実績値の比較により評価する。

取組と目標に対する自己評価シート(自己評価結果)

(実績評価)

実施内容

	R6 年度	R7 年度	R8 年度
通所型サービス利用者数（目標値）	168 人	168 人	168 人
通所型サービス利用者数（実績値）	136 人	143 人	
利用者実人数	11 人	13 人	
何らかの活動につながった人	8 人 (72.7%)	8 人 (66.7%)	

自己評価結果 【○】←(◎, ○, △, ×のいずれか※を記載してください。)

年2クール実施し、1回の定員を6人として実施している。

前期は、6人の利用者がいたが1人圧迫骨折で途中リタイアされた。しかし、後期に参加された。

後期は、新規5人、リタイア1人、継続1人の計7人の利用者が集まった。教室参加率は高かったが、教室終了後何らかの活動につながった人・再び活動に参加できるようになった人は、前年度より低くなり、66.7%であった。認定を受け要介護1となった方もいた。

参加対象者が定員までなかなか集まらないことが課題だったが、R7年度は定員枠を超えての利用となった。

課題と対応策

うつ傾向の強い人や認知機能が低下している参加者は、プログラムの継続が少し難しい場合がある。

自宅での自主トレを実施されないと目に見える効果は出てこない。自主トレを実施し、教室に休まず参加される方は、身体機能の向上を実感できているので、参加意欲を高めるかわりと、自主トレの重要性を理解してもらえるかわりが重要。

直営教室型のため随時の利用ができない。地域包括支援センター職員に通所型サービスCの対象者をはっきりと理解してもらい、次の教室開始まで、対象者の参加意欲保つ工夫が必要という課題がずっと残ったままである。

※「◎達成できた、○概ね達成できた、△達成はやや不十分、×全く達成できなかった」